



第四十八回 白樺地区公民館杯

新春川柳大会 (令和五年一月二十八日)

謝選 渡部社会教育課長 選

打ち勝つは自分自身のその心
選挙戦八方美人で通り抜け
悲劇から闘い抜いて得た歓喜
年の瀬を一步進んで年重ね
薬だよ声かけ合つて暮らす日々
おもしろいポテトチップス箸で食う
鏡餅比べる腹のふくよかさ
物価高卵焼きがたくあんに
傷ついたレコード盤に思い出が
コロナより強くなりたいやけつぱち
地道なるこの一步こそいだいなる
バチバチと目線の先に恋敵
ミサイルより小鳥飛び交う地平線
一ミリが勝敗分ける名勝負
ウイルスに戦争物価の三つ巴
希望もち前へ進んで花開く
進学の間孫に年金羽根がつき
丸い背をのばして進む老いの道
またコロナ予定たても進めない
ふと気づくあふれ湧き出る郷土愛
枯れるまで命を洗う酒ほろり
仲いいねいいえ夫は杖替わり

味噌父

木村照子

遠藤祐寛

長沼サツコ

安部洋一

土田達雄

若い衆

後藤信義

関川豊章

二瓶老母

長沼喜美

高橋賢治

北原 実

鈴木 孝

川崎てい子

高橋時子

伊藤綾女

佐野和市

佐藤清美

山口照美

住吉吉郎

木村堤子

選者選の部

祝選 熊野昌昭教育長 選

災害も知恵と技術で復興だ
選挙戦八方美人で通り抜け
雪おろし雪と戦う年よりばかり
コロナ禍で戦うナースの心意気
丸い背をのばして進む老いの道
またコロナ予定たても進めない
隔離部屋孫のにぎりの旨い事
点滴に命たくした夜が明ける

秀 逸

後藤信義

木村照子

佐藤清美

北原 実

佐野和市

佐藤清美

川崎てい子

安部洋一

五 客

選挙戦公約指切りしてほしい

プーチンの非道に呆れるエンマ様

ウイルスに戦争物価の三つ巴

進化する時代に乗れず紙対応

茅、杉葉 昔重宝今厄介

三 光

人 進学の曾孫に年金羽根がつき

地 一ミリが 勝敗分ける名勝負

天 物価高買物カゴのすきま増え

ユーモア句

鏡餅比べる腹のふくよかさ

水前寺さん！ 一步進むのやつとです

副選 二瓶久子 選

秀 逸

八十路坂五回接種で又登る

デジタル化早い進歩に追いつけず

三つきいて二つ忘れて老い進む

一步ずつ進んだ努力に花が咲き

味噌父

木村照子

遠藤祐寛

長沼サツコ

安部洋一

土田達雄

若い衆

後藤信義

関川豊章

二瓶老母

長沼喜美

高橋賢治

北原 実

鈴木 孝

川崎てい子

高橋時子

伊藤綾女

佐野和市

佐藤清美

山口照美

住吉吉郎

木村堤子

未来へと進む我らの生きる知恵
喜怒哀楽どこへ忘れた認知症
年輪の丸さで豊かに行く余生
枯れるまで命を洗う酒ほろり

五 客

弱音吐く前に挑戦好奇心

コロナ禍で戦うナースの心意気

サイコロを転し進む福わらい

点滴に命たくした夜が明ける

妻、母を果たして生きる自由席

三 光

人 矢印が見えて歩巾に出るゆとり

地 戦中戦後生きて優しい風もらい

天 進学の曾孫に年金羽根がつき

ユーモア句

騎馬戦で帽子取る前馬こける

水前寺さん！ 一步進むのやつとです

主選 片倉卯月 選

「戦」秀 逸

戦わぬ話し合おうよ仁政を

打ち勝つは自分自身のその心

災害も知恵と技術で復興だ

紐解いて戦国の世に想い馳せ

弱音吐く前に挑戦好奇心

戦争を忘れられない墓がある

競争は世界を変える愚か者

プーチン戦世界平和をかき乱し

五 客

敗戦の底辺暮らし忘れない

論戦が火花飛び交う金バツチ

バチバチと目線の先に恋敵

軍服を着れば戦さの型になる

胸張ってゆこう戦後を生きている

三 光

人 ミサイルより小鳥飛びかう地平線

地 戦中戦後生きて優しい風もらい

天 大一番乱れた鬻が物語る

ユーモア

騎馬戦で帽子取る前馬こける

平和主義負けるが勝ちと一步引く

「進」秀 逸

悲劇から闘い抜いて得た歓喜

受験生進路が決まり夢近し

踏みしめて季節感じる霜柱

改革が進み定年先延ばし

宝くじ夢に向つて又も買い

三つきいて二つ忘れて老い進む

のど鳴らし帰省我が子の箸進む

丸い背をのばして進む老いの道

五 客

手土産の古里の味食進む

重ねても先に進まぬ拉致被害

寒くても寒ダラもとめ足進む

なまけてはおれぬ眼鏡の度が進む

話し合い黙つていたら進まない

三 光

人 どうしよう過疎が進むよ飯豊町

地 後ずさりしたらその分伸びしろに

天 隔離部屋孫のにぎりの旨い事

ユーモア

水前寺さん！ 一步進むのやつとです

お相撲さん懸賞金に突進す

高橋賢治

安部洋一

伊藤綾女

住吉吉郎

伊藤綾女

北原 実

佐野和市

安部洋一

伊藤綾女

住吉吉郎

伊藤綾女

伊藤綾女

土田達雄

木村照子

高橋時子

味噌父

後藤信義

味増父

伊藤綾女

住吉吉郎

佐野和市

伊藤綾女

佐野和市

伊藤綾女

安部洋一

安部洋一

高橋賢治

佐野和市

住吉吉郎

住吉吉郎

北原 実

伊藤綾女

高橋賢治

高橋賢治

土田達雄

鈴木 孝

遠藤祐寛

味増父

木村照子

味増父

若い衆

若い衆

北原 実

住吉吉郎

住吉吉郎

川崎てい子

佐野和市

佐野和市

後藤信義

後藤信義

佐藤清美

住吉吉郎

住吉吉郎

高橋賢治

高橋賢治

味噌父

味増父

川崎てい子

高橋賢治

木村照子

木村照子

「自由吟」秀 逸

糖尿病 ガマンできない甘い菓子
ふと気づくあふれ湧き出る郷土愛
自分にも自慢ゴールド免許証
矢印が見えて歩巾に出るゆとり
被災者の笑顔見たさに耐える腕
新春のかるた凧上げ今いずこ
飯豊から温泉宿が一つ消え
枯れるまで命を洗う酒ほろり

五 客

曾孫だつこ何にも勝る宝物
点滴に命たくした夜が明ける
自家用車乗り換えたのは車イス
どぶろくの出来を競ってオラが村
妻、母を果たして生きる自由席

三 光

人物価高買物カゴのすきま増え
地 曾孫帰るはづんだ声の置き土産
天 葉だよ声かけ合って暮す日々
ユーモア句
鏡餅比べる腹のふくよかさ
仲いいねいいえ夫は杖替わり

木村照子

山口照美

佐野和市

住吉吉郎

鈴木 孝

高橋賢治

佐野和市

住吉吉郎

長沼サツコ

安部洋一

木村堤子

北原 実

伊藤綾女

若い衆

長沼サツコ

安部洋一

若い衆

木村堤子

結果報告

☆会員互選(十一名より)

- 一位 住吉吉郎 (四十三点)
- 二位 伊藤綾子 (三十九点)
- 三位 北原 実 (三十八点)

☆一般・会員合同選者選(三名様により)

- 一位 伊藤綾女 (二十二点)
- 二位 住吉吉郎 (十三点)
- 三位 北原 実 (十一點)

☆総合成績

- 優勝 伊藤綾女 (六十一點)
- 準優勝 住吉吉郎 (五十六點)
- 第三位 北原 実 (四十九點)

小学生の部

高橋校長選 低学年(一年生、三年生)

佳句(八句)

八月の水がいとてもこわかった
水たまりこおりになつてツルツルだ
ダムの水カヌーにのつてたのしいな
大雨で水がこわいとおもつたよ
おもしろいべんきょうをするタブレット
だん水はのどがかわいてしかたない
いなくなれコロナなんて大きい
毎日の水はやっぱりおいしいな

十 秀(十句)

ゆきだるまとけてながれて水たまり
ことしこそうみにいきたいつりしたい
たのしみだわくわくどきどきお年玉
おひさまができてとけたゆきだるま
水がいかわかった水のたいせつさ
大みそかお肉にそばにおいしいな
雪がつせんみなでたたかいぶつけあい
いいで町水がおいしいいい町だ
水がいなんでもこわすこわいもの
寒いからコタツにもぐるねこみだい

たかはしゆうせい

おがたゆい

菅野可純

山口さな

わたなべまゆ

横山れい

土田あやと

横山しずく

五十嵐太鳳

木村はるま

安部冬未羽

あべまつり

こばやしみちか

たかはしとむ

石川結翔

堀江しゅうり

佐原まいか

志田莉央奈

五 客(五句)

水とまるあわててくんだすいどうすい
どうろから水がいつぱいでてくるよ
しよう雪の水ふき出して遠まわり
もうすこしあねといっしょのだいにしよう
水たまりのぞくとぼくが笑つてる

三 光

人 位(第三位)
ぜいたくだ天然水でうがする
地 位(優秀)
ひなん場所ぼくもいっしょにお手つだい
天 位(最優秀)
水が出たまちにまつたよ水が出た

堀江勝之宥

えんどうたまき

はせがわはるき

すずきまほろ

渋谷 勇

若山 尊

山口采希

小関けいすけ

伊藤綾女選 高学年(四年生、六年生)

佳句(八句)

山を見てはくばのきしが白くなる
のみ水がおいしくかんじるありがたさ
いいで町きれいな水でいつまでも
水を飲む飲む度思う大切さ
頭きた!!水に流そういかりごと
ノーマスクコロナおさまれみな笑顔
水々しい野菜を食べて腹いっぱい
水をのむ水は世界の宝物

十 秀(十句)

初もうで神にねがった幸せを
水遊びふざけすぎたら命とり
水きよしわがふるさとにうるおいを
助け合い夏のあの日思い出す
川の水あふれてどじようがこんには
雪丸めて当てる当たって雪合戦
担任に感謝あふれるこの気持ち
気をつけて時には水もてきになる
水面に空写し出す水鏡
雨水の音がやまないねむれない

五 客(五句)

とびはねろもくひようにむかつて一歩ずつ
新年のほうふを考え背すじピン
初もうで戦争おわれと手をあわせ
お母さんなんかぼくより小さくない?
花も人も水のおかげで笑顔さく

三 光

人 位(第三位)
じよせつきにのまれる雪たち空のたび
地 位(優秀)
雪とけて屋根から落ちる水のつぶ
天 位(最優秀)
給水車地域をこえて命の輪

あいさつ

向春の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
異常気象のせいもあってか、今年は積雪量が去年に比べ約半分位に思
え、幾分過ごしやすかった様に思われます。コロナ終息にはまだ至つて
おりませんが、今年も「かるた取り大会」「新春川柳大会」を実施させて
頂きました。
審査については諸先生方にお忙しい中選句戴き、誠にありがとうございます
いました。かるた取り大会に於いては子供たちの元気な動き、川柳大会
に於いても和やかな雰囲気の中で開催されました。これも偏に日頃より
公民館事業に対しご理解とご協力を戴き実施できたものと思っております。
つきましては、公民館事業に対しまして今後共、ご理解とご協力の程
よろしくお願い申し上げます。

